

大野 岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和6年12月24日発行 文責 校長 中尾 聡彦

実り多い2学期が終わりました

長く、そして様々な行事が行われた2学期が終わりました。

子どもたちは、様々な行事の中で、教室では学ぶことができない貴重な経験をしたことと思います。

また、行事によっては、地域の方々のお力添えをいただきながら実施できたものもたくさんあります。関係者のみなさま、本当にありがとうございました。

2学期の終業式では、次のようなことを話しました。子どもたちなりに、新たな一年のスタートについて考えて欲しいと思っています。

みなさんは、「一年の計は元旦にあり」という「ことわざ」を聞いたことがありますか。「元旦」とは、元日(1月1日)の朝のことです。

私は、このことわざは、てっきり中国由来のものと思っていましたが、500年以上前の戦国時代の武将として有名な毛利元就(もうりもとより)の言葉が由来であるという説を最近知りました。元就が息子の隆元(たかもと)にあてた手紙の中で、次のように伝えています。

一年の計は春にあり(一年の計画は春(年の始め)に立てなさい)

一月の計は朔(ついたち)にあり(一月の計画は月の最初の日を立てなさい)

一日の計は鶏鳴にあり(鶏鳴とは一番鶏が鳴く早朝のことで、一日の計画は朝早く立てなさい)

これらは、何の計画もなく、何も考えずに一年のスタートをきってはならない！物事を始める時には、きちんと計画を立てることが大事だということを伝えています。

みなさん、この冬休みは、一年を振り返って、今年は何をするのか、正月に決意を新たにす冬休みにして欲しいと思います。そして、2025年の新たなスタートを切ってほしいと思います。

あと3か月も経てば、1年生は2年生になります。

特に、9年生は年が明けると、いよいよ自分の夢の実現のための大切な一步を踏み出すことになります。一人で乗り越えることができなくて仲間と励まし合いながら「TEAM 南波多」で乗り切ってほしいと思います。応援しています！

第8期児童生徒会が始動します

11月22日(金)に第8期児童生徒会の児童生徒会長を選出する立会演説会並びに投票が行われました。

4名の立候補者が、緊張しながらも、それぞれの公約を懸命に主張してくれました。

4名の候補者の公約は次のとおりです。(原文のまま)

互いに認め合い、笑顔があふれる郷学館

○ 楽しめる時間を増やす

・ 愛郷放送の続行 ・ 全校交流の場:スマイルマッチ ・ 雨の日の昼休み体育館開放

皆が安心・安全で過ごせて、他の学年とも仲が良く協力し合える学校を目指す

① 交流会を増やす(体育館の有効活用)

② 規則を守り、日常生活を向上する(各委員会の常時活動をはっきりさせ、担当業務を達成させる)

みんなでつくる郷学館

○ 楽しめる時間を増やす

① 児童生徒委員会の組織改革 ② 昼休みの体育館開放 ③ 「タテワリフェスタ」の開祭

児童生徒が安心して快適に過ごせる生活環境をつくる

① 交流会(南郷仲よし大作戦)の設置・いこいの広場の有効活用

② 生活の心得の見直し

4名の公約はいずれも南波多郷学館を自分たちの力でどう改善していくかという視点に基づいたものでした。まさに、「わたしたちの郷学館は わたしたちが創る」という本校のスローガンそのものです。

第7期児童生徒会は、登校坂を「愛郷坂(あいきょうざか)」と命名したり、放送室の有効活用として「愛郷放送」を始めたり、児童生徒会規約を見直したりと、これまでにない主体的な活動を展開してくれました。井手第7期児童生徒会長は、12月4日(水)に行われた児童生徒集会で、これまでの活動を振り返りながら、「これからも『わたしたちの郷学館は わたしたちが創る』という気持ちを大切にしていってほしい」という言葉で最後の挨拶を締めくくりました。

これからの第8期児童生徒会の活動を楽しみにしています。

※ 写真は、朝から9年生と8年生が登校坂の清掃活動に主体的に取り組んでいる様子です。

